

令和3年第4回魚沼市議会定例会
一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
令和3年12月8日（1日目）			
1	16	森 島 守 人	一問一答
2	5	浅 井 宏 昭	一問一答
3	12	遠 藤 徳 一	一問一答
4	6	星 野 みゆき	一問一答
5	2	横 山 正 樹	一問一答
6	7	大 桃 俊 彦	一問一答
7	1	桑 原 郁 夫	一問一答
令和3年12月9日（2日目）			
8	15	高 野 甲子雄	一問一答
9	13	渡 辺 一 美	一問一答
10	4	星 直 樹	一問一答
11	3	佐 藤 達 雄	一問一答
12	17	本 田 篤	一括
13	8	大 平 恭 児	一問一答
14	10	志 田 貢	一括

※一括：一括質問一括答弁。質問を一括して行い、それに対する答弁も一括して行う。

※一問一答：初回は一括質問一括答弁とし、再質問以降は一問ずつ質問、答弁を行う。

令和3年第4回魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

令和3年12月8日（1日目）

1番（議席16番）森島守人 一問一答

1. 魚沼市の農業政策について

中山間地には、耕作条件が非常に厳しい圃場が多く、高齢化による担い手不足が顕著である。また、農業経営は厳しく、農業を諦めてしまう人もいる。今後、耕作放棄地が増え里山の管理ができずに原野、山林化して田んぼの持つ多面的機能が失われることが特に懸念される。

法人、大規模農家への支援はもとより、地域を守る意味でも地域を熟知した家族経営の小規模農家が必要であり、支援することが重要と考える。

（1）家族経営などの小規模農家への政策をどのように考えているか。

（2）山間地の現状を聞くと、農地が分散し、担い手による農地の色分けが定まらず、道水路管理はもちろん、日常の管理や機械作業の効率が上がらないとのことである。行政がリーダーシップを発揮し、農地の所有者と担い手の間に入り、分散錯圃解消のため農地の集約を進めるべきと考えるが、どのように進めるか。

2. 中学生議会の一般質問に対する実現に向けて

（1）市長就任後、初めて中学生議会に出席した感想はどうか。

（2）今まで中学生議会の質問に対し、実現できたものはあるか。

（3）未来を担う子どもたちの提言を、今後どのように実現していくか。

2番（議席5番）浅井宏昭 一問一答

1. ICTを利用する環境について

魚沼市はICTを取り入れた授業を導入しているが、子どもたちが利用しているタブレットはどのような環境で利用されているか、また利用環境は整っているかについて問う。

（1）タブレットを家に持ち帰って宿題をさせることはあるか。

（2）市はWi-Fiルーターを設置していない家庭へポケット型Wi-Fiの貸出しを行っているが、Wi-Fiルーターを設置していない家庭は経済的な理由から設置できない可能性もあり、家庭の収入状況によってはポケット型Wi-Fi

【メモ】

や据置き型のWi-Fiルーターの契約料が負担となる家庭もあると思われる。ICTを取り入れた授業を市で推進する以上、家庭に負担をかけることはあってはいけないと考えるがどうか。

- (3) ある家庭では、市からポケット型Wi-Fiの貸出しを受けているが、月の通信料が多く、すぐに制限がかかってしまうので、住んでいる市営アパートに光ケーブルを取り込もうとした。しかし、担当者から「光ケーブルを取り込むことでほかの部屋に影響が出る」「電柱から取り込んだ線が切れた時の補償」などの問題点があると指摘され、光ケーブルを取り入れることができなかったが、最近になって「光ケーブルがもし切れた場合は自分で負担する」という約束でケーブルを取り入れることができたようだ。ICTを推進する市としての対応はこれで問題なかったのか。見解を問う。

2. 灯油価格の高騰について

新型コロナウイルスの影響を受けている飲食店、宿泊施設、温泉施設などは灯油を大量に使用する業種も多く、今冬の灯油の値上がりを受け、助けを求めている市民が多く存在すると考える。

- (1) 高齢者をはじめとする非課税世帯などを対象に、灯油購入費を助成してはどうか。
- (2) 新型コロナウイルスの影響を受けている飲食店、宿泊施設、温泉施設、スキー場など灯油を大量に使用する業種にも助成を拡充してはどうか。

3番(議席12番) 遠藤 徳一 一問一答

1. 人道支援のための米の買入れ施策に取り組むべきだ

コロナ禍による収入減や家庭の事情で、米や食料を食べられない人たちが増えている。日本でも相対貧困率が問題となる中、市の施策で独自の人道支援枠を設け、市民の命と生産者を守るべきと考える。市もコロナ対策として県外大学生等に米の支援を行った経緯もあるが、貧困対策としても重要な施策と捉え、取り組んではどうか。市内若手生産者がクラウドファンディングで取り組んでいるが、現状は厳しいと聞いた。市民の貧困策は市が責任をもって取り組むべきと考える。

- (1) 市独自の施策で米の買い付けの予算化を行い、貧困対策及び生産者支援に取り組んではどうか。一次産業の持続に寄与し魚沼ブランドの成長を戦略的にやるべきと考えるがどう

か。

- (2) 市のトップセールスとして、コロナをはじめとする貧困対策として米を作り、市場開拓を行いながら国民と生産者を守る行動に転じるよう、「お米のふるさと」このうおぬまの地から政府に働きかけてはどうか。

2. 小出郷図書館の今後について問う

公共施設再編では市民の声の反発や計画段階での未成熟からその利用価値も見いだせないまま時だけが過ぎている。特に小出郷図書館は小出商工会のにぎわいの核になるとの請願を受け購入に踏み切ったが、購入段階から異論があった。購入に際しては活性化策や行政サービス、ワークショップの開催など言われていたが、市民の声一つ拾う姿勢が見えない。今後どのような展開を考えているか。

新たに（仮称）生涯学習センターとしてプロポーザル参加希望の企業に打診されているようである。

- (1) プロポーザルに参加する建築事務所等は建物単体の設計ではなく、まちづくり、にぎわいづくりの観点から面で捉える設計を行う。今回のプロポーザル委託の中に既存の公共施設を絡め、面で捉えた建物の在り方を設計するよう要件に加えるべきだ。人流、にぎわいの創出には、このようなまちづくり建築家の力は新たな気づきを提供できると思うがどうか。
- (2) エリアリノベーションの専門家等を交えたリノベーションスクールを開校してはどうか。また、このエリア内のこの建物としての役割や責務、庁舎、病院、今後検討がなされる旧小出庁舎跡地の図書館構想等周辺環境とのつながりをどのように捉えるか、市内外から募集を図り、市内の施設を利用しながら取り組んではどうか。富岡市では建築家の建物が意図的に造られ、これを目当てに訪れる人もいる。庁舎再建を隈研吾氏が担い、周辺環境も併せて隈研吾氏がリノベーションを行った。また、リノベーションスクールも開校されたがどうか。
- (3) リノベーション支援を行政が行ってはどうか。十日町市のエリアリノベーションにも山崎亮教授等の市民、専門家巻き込み型の取組で、十じろう、分じろうという拠点型スペースも完成し、最近では文化ホール段十ろうも完成した。図書館も建築家による作品である。まさにエリアリノベーションによる拠点形成でエリアの価値も上がった。魚沼市も専門家に監修をいただき、地元建築士、金融機関、行政

関係者、市内外を問わず関心のある団体による、うおぬまリノベーションネットワークの立ち上げを呼びかけ、支援体制を構築してはどうか。また、福井市ではこのような関係者によるネットワーク化の事業展開の中、リノベーションネットワーク支援事業を予算化し、多様な意見を効率的に推進するための取組をしている。魚沼市ではどうか。

4番（議席6番）星野みゆき **一問一答**

1. 小中学校におけるICT教育について
 - (1) 現在の各学校の授業での利用状況はどのようなものか。
 - (2) 教員のタブレット研修等はどのようなものか。
 - (3) 夏休みの端末持ち帰り状況、普段の週末の端末持ち帰り状況はどうか。
 - (4) 各学校の端末の種類について問題はないか。
 - (5) 他自治体では、端末利用でのいじめにつながるトラブルもあると聞くが、市内ではどうか。
 - (6) オンライン授業の取組はどうか。
 - (7) 端末利用による教育効果はどうか。
2. 不登校問題の現状と取組について
 - (1) 不登校の児童生徒の割合及び要因はどうか。
 - (2) 給食時や部活動のみ、放課後登校等の不規則登校による出席扱いの児童生徒数はどの程度か。
 - (3) 不登校、登校渋りの問題に対し、どのような対策、対応を講じているか。

5番（議席2番）横山正樹 **一問一答**

1. 地域おこし協力隊の成果と課題、今後の展望について
魚沼市では、平成26年度から地域おこし協力隊事業を導入し、今年で8年目になるが、この間の成果と課題、今後の展望について市長の見解を問う。
 - (1) 令和3年度までの地域おこし協力隊の人数及び地域はどうか。
 - (2) 魚沼市として・地域としての成果と課題はどうか。
 - (3) 地域おこし協力隊員退任後の定住率はどうか。
 - (4) 今後の展望として、中山間地域への募集と併せて、商店街のにぎわいを創り出すための募集を考えているか。
2. 市政運営の一つ「郷土愛の醸成」の施策について問う
郷土愛を醸成するためには、子どもたちが魚沼の自然や雪、地域のよさ、楽しさ、喜び、厳しさを地域の人々と共

有しながら、体感すること、体験すること、考えること等の過程が大変重要だと考える。

(1) 将来を担う子どもたちの郷土愛を育むための具体的な施策について市長に問う。

(2) 教育委員会は「郷土愛の醸成」をどのように具現化するか。教育長の見解を問う。

3. 気候変動が及ぼす魚沼市の農業について問う

魚沼市の自然界にも気候変動の影響が目に見えていると感じる。気候変動は、魚沼市の農業に大きな影響を及ぼすと推測される。

(1) 令和元年から令和3年のイノシシとニホンジカの出現とその被害はどの程度か。

(2) 魚沼市の鳥獣対策について問う。

(3) 気温の上昇により寒暖差が小さくなり、魚沼産コシヒカリの食味が落ちることにつながると思われる。今後温暖化に伴う魚沼の米作りについて施策を問う。

6番（議席7番）大 桃 俊 彦 一問一答

1. データセンターを魚沼の地へ

第2回定例会でも一般質問したデータセンターについて、先日、政府がデータセンターの地方での拠点整備に約1,000億円を計上し、ICT基盤の建設を加速させるとの新聞報道があった。

(1) 第2回定例会の一般質問後に、市へ資料を渡し、説明をさせていただいた。データセンターをどのように受け止め、どのように考えているか。市長の見解を問う。

(2) 日本は中国に次ぐデータセンターの立地国であるが、強固な岩盤を有し、災害に強い魚沼市は最もデータセンターに適した場所であると考え。国の、データセンターの地方での拠点整備を進めるという考えについて市長の見解を問う。

2. 部活動の改革について問う

深刻な少子化が続き、生徒数が減少する中、既存の部活動を維持するための課題や方策を探る検討をすべきである。また、保護者の送迎の負担軽減についても検討されるべきである。

(1) 部員不足でチームとして存続できない現状がある中で、複数の中学校による合同練習が必要となる。練習場までの移動にスクールバスを活用してはどうか。

(2) 日本中学校体育連盟の大会に、複数校連合チームとして

参加できるよう申出を行っていくべきと考えるがどうか。

- (3) 教育委員会、学校、スポーツクラブ等で、総合型地域スポーツクラブを視野に入れた検討がされるべき時期が来ていると思うがどうか。

7番(議席1番) 桑原郁夫 **一問一答**

1. まちづくり条例第1条にある、市民の参画と協働によるまちづくりの実現について問う

地域資源の活用という観点から、まず市民が資源を理解するために、自然、歴史、食文化、芸術等の市民大学講座を通じ、総合的に魚沼市を官民協働で活性化させるという考えはないか。

2. 早津氏の絵画50点寄贈のその後について問う

- (1) 本庁舎にも早津氏の絵画が展示されているが、寄贈された50点の絵画を一堂に展示し、市民に紹介する機会を設ける計画はないか。

- (2) 多くの芸術家が魚沼市に存在するが、公共施設を再編する中で、市内外にアピールし、市民の学びと観光に役立てる考えはないか。

8番（議席15番）高野 甲子雄 **一問一答**

1. 「早寝早起き朝ごはん」運動を提唱してはどうか
 - (1) 秋に米価が大幅に下がった。魚沼コシヒカリは下がらなかったとはいえ、今後も下がらないという保証はない。行政として、この事態をどのように受け止め、どのような対応を行ったのか。
 - (2) 食でつながる元気なまちづくり推進計画にある「食」は「米のご飯」と読み取れるが、そのような受け止めでよいか。
 - (3) 心身の健康には、朝ごはんをしっかりと食べることと言われる。一方、睡眠不足が心身の不調と関連していると言われる中、スマホゲーム依存症が小中学生の9.2%と言われる状況がある。米は食べ飽きをしない、どんな食材とも合わせられる、価格が安いという強みがある。魚沼市には何より、おいしい水道水がある。農業を守り、家族の健康のために、早寝早起き朝ごはん運動を提唱してはどうか。
 - (4) 政府に戸別所得補償制度の復活を要請する考えはないか。
2. 介護人材確保について
介護人材確保の困難さは、給与改善に尽きると考える。基金の組替えなどで財源を確保し、介護人材確保を図れないか。
3. 河川内の樹木などの除去について
河川内の樹木や土砂の堆積は、水害の危険性を増すことになる。近年、大沢川や三用川などの中小河川において、里山への豪雨での被害が目立つ。市内にある中小河川の危険箇所の把握と対策はどのようになっているか。

9番（議席13番）渡辺 一美 **一問一答**

1. 定員適正化計画について
現在見直し作業中である定員適正化計画の現状と課題、今後の方向性について問う。
 - (1) 平成28年策定の定員適正化計画の部局別計画によると、令和3年度における正職員、再任用職員、非常勤職員の目標職員数は合計836人であり、内訳は正職員が493人、再任用職員17人、非常勤職員326人という計画となっているが、本年における実際の人数はどうか。また、職種別計画も正職員、再任用職員、非常勤職員別に計画されているが、本年の実態と計画にはどのような差があるか。さらに、職種

別計画詳細もある。これは正職員の新規採用と再任用職員を含む正職員の計画であるが、これについても本年3月の退職者、4月新規採用計画と実際の数人どようになっているか。また、新規採用の年齢構成はどうか。計画に対する本年の実態を問う。

(2) この計画では、職員の年齢構成と男女比が分からない。本年4月の正職員と非常勤職員(会計年度任用職員)の職種別における5歳刻みの年齢構成と男女比を問う。また、先月、ある方から年金をもらっているような退職職員が再任用職員で勤務しているのはおかしいのではないかと聞かれたが、年金を満額もらえる年齢に達した再任用職員はいるか。

(3) その方が私に訴えたかったことは、再任用職員を雇用するくらいなら、若い人が市役所に勤められるように、再任用職員分を減らして、新規採用の枠を増やして欲しいということだった。計画と本年の実態、計画からは見えてこない年齢構成と男女比を分析した結果を踏まえて、当市の正職員はどの年齢層が少なく、管理職の起用に支障がある等の課題もあると考えるが、今後の新規採用について、市長は課題をどう捉え、今後どのように計画を見直す必要があると考えているか問う。

(4) 会計年度任用職員の採用、報酬等に関する規則によると公募によらない再度の任用は4回までである。これは、いわゆるパートタイム会計年度任用職員にも適用されるのか。また適用されるのであれば、令和2年度から始まった制度であるが、今年度の任用はどのように行なっているか。この規則によれば、公募であれば年限の制約はないのか。

また、会計年度任用職員は不安定な雇用形態である。正職員への登用、社会福祉法人・NPO法人等への業務委託など、会計年度任用職員のキャリアの継続、安定した雇用、所得の向上等について、市長の見解を問う。

2. 原油価格高騰に対する支援策について

寒冷地の生活困窮者の灯油購入を支援する福祉灯油事業について、本市は以前の事業と同様の内容であるが、市民全体が苦しい状況である中、国の給付金の恩恵に預からない世帯へも支援が必要なのではないか。

魚沼市民にとって、車は必需品であり、一人一台以上所有している世帯がほとんどである。経済対策として19歳以上の全市民を対象に、灯油又はガソリンで使えるクーポン券5,000円分を支援

するなど、市独自の家計への支援が必要と考える。市長の見解を問う。

【メモ】

10番（議席4番）星 直 樹 一問一答

1. 市内3スキー場の運営について

- (1) グリーンシーズンの活用について、各スキー場では検討している段階だと思う。新たな取組を行う際には財源が必要な場合がある。グリーンシーズンの取組を行う際の支出について、市はどの程度負担をするのか。
- (2) 今シーズン、3スキー場の小中学生向けに共通シーズン券が発売された。今後、シニアが対象になることはないか。
- (3) 今シーズンは五日町スキー場が営業を行わない。近隣の規模の小さなスキー場は縮小、休業に迫られている。市内3スキー場における今シーズンの新たな団体受け入れ、大会の誘致はどの程度あるか。
- (4) 足立区や江戸川区ほか、都内の小学生が授業の一環として魚沼市に滞在し、魚沼の文化や伝統、そしてスキーを楽しんでいる。授業終了後にアンケートを行い、魚沼の魅力や不足点を聞き出しているか。よそ者、若者の意見に耳を傾けるいい機会だと思うがどうか。

2. 職員の処遇について

- (1) 正職員、会計年度任用職員の人数は適正であると考えるか。
- (2) ノーネクタイなど職員の軽装での執務を通年実施してはどうか。
- (3) 人事異動サイクルのルールはあるか。

11番（議席3番）佐 藤 達 雄 一問一答

1. 小出病院の充実について

小出病院は地域医療の要であり、病床を確保し、さらに充実を図っていくべきと考える。

- (1) 6月に開催された今年度第1回魚沼圏域地域医療構想調整会議では、少人数での意見交換の場で課題を整理し、調整会議にかける形で議論を進めて行くとしていたが、11月末時点でまだ開催されていないと聞いた。これは事実か。また今後の開催予定はどのようになっているか。
- (2) 少人数会議のメンバー構成は、住民目線で、地域や自治体の考えを反映させるよう配慮するとしているが、どのような構成になる予定か。

(3) 少人数での意見交換の内容、議論された課題と対応案等を逐次整理し、討議内容を広く市民に公表すべきと考えるがどうか。

2. スキー場の活性化について

事業者の事業計画を支援し、官民共同してスキー場の活性化を図るべきと考える。

(1) 9月末日途で各事業者から提出された5か年間の事業計画について、市はどのように評価しているか。

(2) 各事業者はそれぞれ誘客活動計画を持っているが、市も支援していききたいとしている。事業者と市で一体的に誘客活動を行うことが効果的と考えるが、どのように進めていく予定か。

(3) 各スキー場のリフト駆動の制御盤は、シーズン中毎日連続的に稼働し、電子部品も多い。毎年定期点検は行っているが、その信頼度維持のためには一定年数ごとの設備更新が必要と考える。各スキー場の制御盤の経年劣化状況、設備更新計画について、どのように把握し予定しているか。

3. 地球温暖化対策の一層の推進を

(1) 小中高校の地球温暖化対策教育の一環として、校舎の屋上や壁等に太陽光パネルを取り付け、表示装置を活用して発電量・自家託送量を把握できるようにし、太陽光発電の仕組みを学べるようにしてはどうか。

(2) 校舎の太陽光発電により校舎内の電力を賄うとともに、蓄電し余剰電力を市庁舎や病院等に配電することにより、エネルギー節減とともに電気料金を節減できる。温暖化対策は差し迫った問題であり、早期に取り組むべきと考えるがどうか。

(3) 温暖化対策として、自治体としてもできる限りのことをすべきである。窓の二重化や壁の断熱化等により冷暖房費を抑制するよう推奨し、助成をしてゆくべきと考えるがどうか。

12番(議席17番) 本 田 篤 一 括

1. 金融教育を早い時期より取り入れよう

お金の仕組みについての教育は、資本主義社会の中では必須ではないかと感じる。また、世代別で全国民の個人資産の6割を保有する60歳以上に対し、世代会計の不平等を抱え、かつ老後2,000万円問題など、資産を持たない若手世代においては、金融教育の必要性があるのではないかと考える。

来春より高校の授業で取り入れるなど、金融教育の重要度がようやく認識されつつある。特に、この社会の中では金融教育を早い時期に行うことが重要と感じる。

金融教育を市民向けに行うべきではないか。特に小中の学校教育場面において取り入れるべきと考えるがどうか。

2. 安定的な排尿動作を目指すために、健康増進の取組から、まちづくりの視点まで

基本的日常生活動作において、衛生面の保持が難しいのが排泄行為である。特に男性においては、立位で排尿することが、高齢男性ほど難しく、また排尿時に転倒するケースもみられ、危険度の高い動作である。そこで、衛生面や安全面の視点から座位での排尿行為が注目されている。

- (1) 健康増進の立場から、衛生面、安全面での効果は大きいと考える。市としても、座位での排尿行為の普及に向けての取組を積極的に推奨してみないか。
- (2) 教育の立場から、小中の学校教育でも取り入れてはどうか。
- (3) まちづくりの立場から、公共施設を全て洋式トイレにすべきと考えるがどうか。
- (4) まちづくりの立場から、尿による飛沫汚染なども含め感染予防にも役立つと考える。飲食店のトイレも洋式トイレに変更する際は、店舗リフォーム補助制度の拡充などを行ってはどうか。

3. ETC2.0の社会実験を大いに活用しよう

ETC2.0仕様による高速道路から乗り入れサービスは国内23カ所の道の駅で実証実験を行っている。地域活性化の可能性の視点から、魚沼市も手を挙げてみてはと考える。

- (1) 深雪の里へのETC2.0による道の駅乗り入れを考えてみてはどうか。
- (2) 今は3時間という時間内に高速道路に戻る必要性があり、高速道路から遠方の道の駅では使用しにくい。あと2時間延長すれば、入広瀬にも足を伸ばせる。時間の延長についても協議してはどうか。
- (3) 現在は、道の駅のみの想定であるが、文化会館の利用も提案してはどうか。

13番（議席8番）大平 恭 児

一問一答

【メモ】

1. 燃料高騰による支援策について

- (1) 福祉灯油について、補正予算で非課税世帯を中心に1世帯当たり5,000円の助成を実施するとしたが、現状の灯油の高騰を見ても長い冬を乗り切るためには少ない金額である。国も灯油については交付税措置を行うと聞いている。生活実態に合うようにさらに増額を行うべきと考えるがどうか。
- (2) 市内企業への燃料高騰などの影響はどうか。また、その対応策について、どのように考えているか。

2. 補聴器助成について

- (1) コロナ禍で高齢者の外出機会が減っているとされており、認知症も進行しやすくなると懸念されている。聞こえの問題は当事者にとっては切実である。また、障害認定を受けた方と違い、高齢に伴う加齢性難聴は助成がなく、高額な補聴器購入は経済的にも負担が重くなっている。認知症につながるとされる加齢性難聴者にも補聴器購入の助成を検討すべきと考えるがどうか。
- (2) 補聴器を利用している方にはクリアな音が期待できる磁気ループは、社会参加や健康で生活するためには重要な設備だと思う。また、磁気ループには様々なタイプがあり、用途に合わせた設置ができる。磁気ループを導入する考えはないか。

3. 中小企業、小規模事業者の振興について

コロナ禍においても地域経済の要である中小企業、小規模企業の振興を図るために、中小企業、小規模企業振興基本条例に基づいた施策が一層求められる。そのためにも、それを推進する組織が必要である。金融機関、企業や関係団体及び市民が入った形で、知恵を集めて乗り越えていく協力協働組織を立ち上げる考えはないか。

14番（議席10番）志 田 貢

一括

1. ツバメと共存できる社会について

ツバメは昔から人通りの多い家の軒先に巣を作るので、商売繁盛の象徴として大切にされてきた。また、その小さな体からは想像できないほど大食漢で、1日に数百匹の虫を食べることから、害虫駆除をしてくれる益鳥ともされてきた。しかし、近年は家の軒先での巣作りや、ふん被害も出ていることから駆除の話も聞こえてくる。

- (1) 巢の保全と、ふん被害解消の両立を図れるよう、保護と管理の両立に向けた取組ができると考えるがどうか。
- (2) 改めてツバメは益鳥であるとの理解が必要と考える。市においても啓発活動が必要と考えるがどうか。
- (3) 害虫駆除の先鋒としての位置づけで、ツバメが活躍できる施策も必要と考えるがどうか。

2. 狩猟が身近な存在になるために

狩猟者人口の減少、高齢化が進んでいる。当市も、有害鳥獣による農作物の被害防止のため、補助金を交付するなどの取組を行ってはいるが、狩猟後継者が少なく、狩猟技術の存続が危ぶまれている。いずれは人間が獣に翻弄される時代がやってくる可能性も否定できない。

狩猟が身近な存在になるために、射撃場の誘致などを検討してはどうか。